

柏の景気情報（平成19年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年1月分）

○ 調査期間 : 平成19年1月19日 ~ 1月24日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	72	72.7%
建設	17	13	76.5%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	40	29	72.5%
サービス	19	12	63.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【19年1月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは3ヶ月連続で悪化。製造業DIは前月比▲38.8と大幅に悪化、37ヶ月振りにマイナス水準 ▶

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲37.5)、サービス業▲8.3(同▲16.6)、卸小売業▲13.7(同▲20.6)である。特に、建設業はマイナス幅が△22.2ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲22.2(同△16.6)であり、▲38.8ポイントと大幅に悪化した。

【建設業】では、「鉄・石材・ガソリンなど材料費が値上り」、「原材料の高騰で材料費増額はかなり厳しい」との仕入上昇の声や、「小額工事が多く、人間的に多忙な割には利益が少なく、完工高とのバランスが悪い」、「民間工事が若干好転しているが価格値下がり採算が合わない」との利益減少の声や、「緩やかな景気拡大が続くと云われているが、好景気感は無で依然として激しい過当競争に陥っている」、「近隣にリフォーム会社が多く進出し、マンション建設増加に伴い戸建住宅が減少。マンション建設は地元業者にとっては死活問題」、「年度末の受注量は確保、年度明けの受注は好材料がない」、「3月まで工程が混んでおり、忙しいと外注度合いが高くなり影響大」との厳しい声が寄せられた。

【製造業】では、「昨年比で売上は伸びている」、「全体的な状況は継続的に良好に推移」、「半導体中心の設備投資は好調で2007年上期も持続」との明るい声の反面、「原材料費の高騰等で利益は圧迫」、「暖冬によりカイロが若干不調」との厳しい声も寄せられた。

【卸・小売業】では、「ららぽーと柏の葉開店し、柏駅前地区商業施設は厳しい状況」、「おおたかの森SC開店は影響がある」、「ららぽーと柏の葉に続きおおたかの森SCのスタッフ募集が本格化、人材不足が深刻」、「3月におおたかの森SCが開店、900坪の書店が出店」等のららぽーと柏の葉・おおたかの森SC開店に関する声が寄せられた。暖冬のため、「コート・セーター類在庫処分が早まる。新学期用品は順調」、「見切りの冬物に動きがある」、「灯油の販売量が減少」、「野菜は入荷増で単価安、果実は入荷減の単価高。全体的には入荷増だが売上は減少、正月需要後で厳しい」との声や、「原油高騰」、「LPガス仕入価格は高値安定、円安も加わり再上昇の兆し。問題はあがるが地道な努力が生き残る道」、「ユーロ高でヨーロッパ方面の材料が値上り」との原油高騰・為替変動による仕入上昇の声や、「福袋は伸びなかった」、「初売りは周辺競合激化の影響を受け、入店客数・売上共に前年を下回り低調な推移」、「例年のことながら中旬以降は低調に推移」、「食品横這い。衣料不振。ゲーム機(wii、DS)関連好調。住関連不調。今後同様の傾向が続く」との厳しい声が寄せられた。一方で、「SUPER6DAYSは期間中売上7億円となり、100.2%と前年をクリアした。セール終了後SUPER FINALは前年売上を確保したが、前半の落ち込みをカバーするには厳しい状況」、「前月は100.8%と微増。今月も同程度で推移」との売上増加の声が寄せられた。「食品・飲食店関係は日・祝日によって売上が左右され、成人式の日程変更は売上に大きな影響」との声も寄せられた。

【サービス業】では、「今月は予約客と法事などの団体客が好調」、「宴会部門は会議・小規模展示会受注増。宿泊部門は財務省関連が増加」との明るい声の反面、「苦戦している店が多い」と指摘する声が寄せられた。

◎暖冬

「カイロが若干不調」、「コート・セーター類在庫処分が早まる。新学期用品は順調」、「見切りの冬物に動きがある」、「灯油の販売量が減少」、「野菜は入荷増で単価安、果実は入荷減の単価高。全体的には入荷増だが売上は減少、正月需要後で厳しい」との声が寄せられた。

◎ららぽーと柏の葉・おおたかの森SC

「ららぽーと柏の葉開店し、柏駅前地区商業施設は厳しい状況」、「おおたかの森SC開店は影響がある」、「ららぽーと柏の葉に続きおおたかの森SCのスタッフ募集が本格化、人材不足が深刻」、「3月におおたかの森SCが開店、900坪の書店が出店」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲10.6	▲33.3	△16.6	▲10.7	▲21.4
9月	▲14.8	▲26.6	△5.5	▲14.8	▲28.5
10月	▲7.1	▲20.0	△13.3	▲7.4	▲15.3
11月	▲12.3	▲26.6	△17.6	▲24.1	▲8.3
12月	▲14.6	▲37.5	△16.6	▲20.6	▲16.6
1月	▲15.2	▲15.3	▲22.2	▲13.7	▲8.3
見通し	▲2.7	▲15.3	△16.6	▲10.3	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 2.7	△ 2.7	▲ 15.2	▲ 6.9	▲ 44.4	▲ 36.1	△ 18.0	△ 18.0
建設	±0.0	△ 7.6	▲ 23.0	▲ 23.0	▲ 69.2	▲ 53.8	△ 7.6	△ 7.6
製造	△ 16.6	△ 27.7	▲ 5.5	△ 11.1	▲ 50.0	▲ 33.3	△ 11.1	△ 11.1
卸・小売	▲ 3.4	▲ 13.7	▲ 17.2	▲ 13.7	▲ 37.9	▲ 34.4	△ 13.7	△ 13.7
サービス	▲ 33.3	±0.0	▲ 16.6	±0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	△ 50.0	△ 50.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.2	▲ 2.7	△ 1.3	▲ 5.5
建設	▲ 15.3	▲ 15.3	±0.0	▲ 15.3
製造	▲ 22.2	△ 16.6	△ 11.1	±0.0
卸・小売	▲ 13.7	▲ 10.3	±0.0	±0.0
サービス	▲ 8.3	±0.0	▲ 8.3	▲ 16.6

【平成19年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

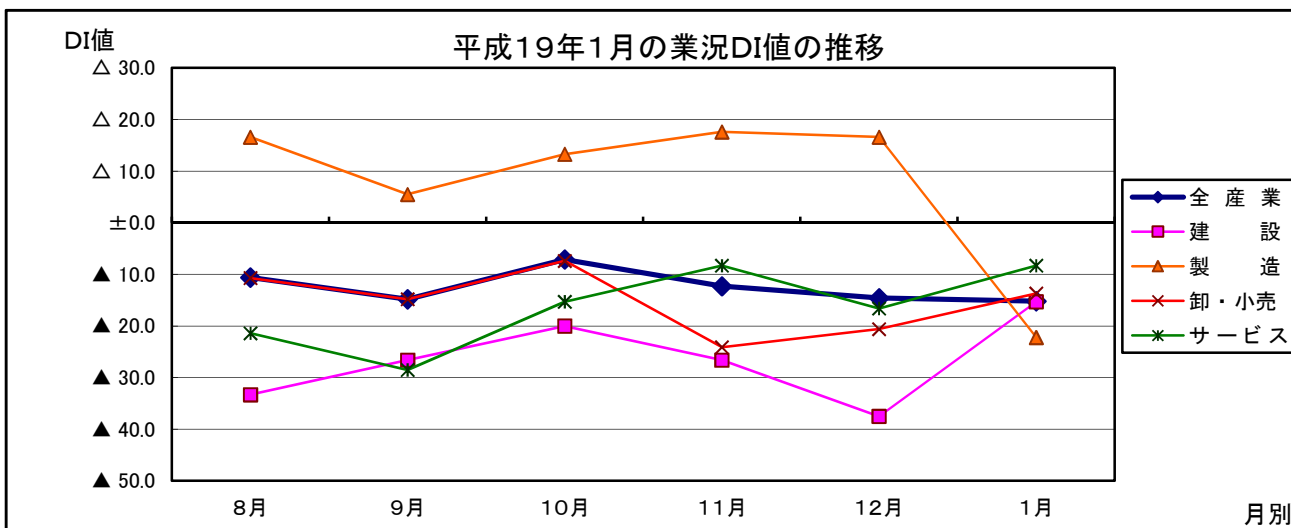
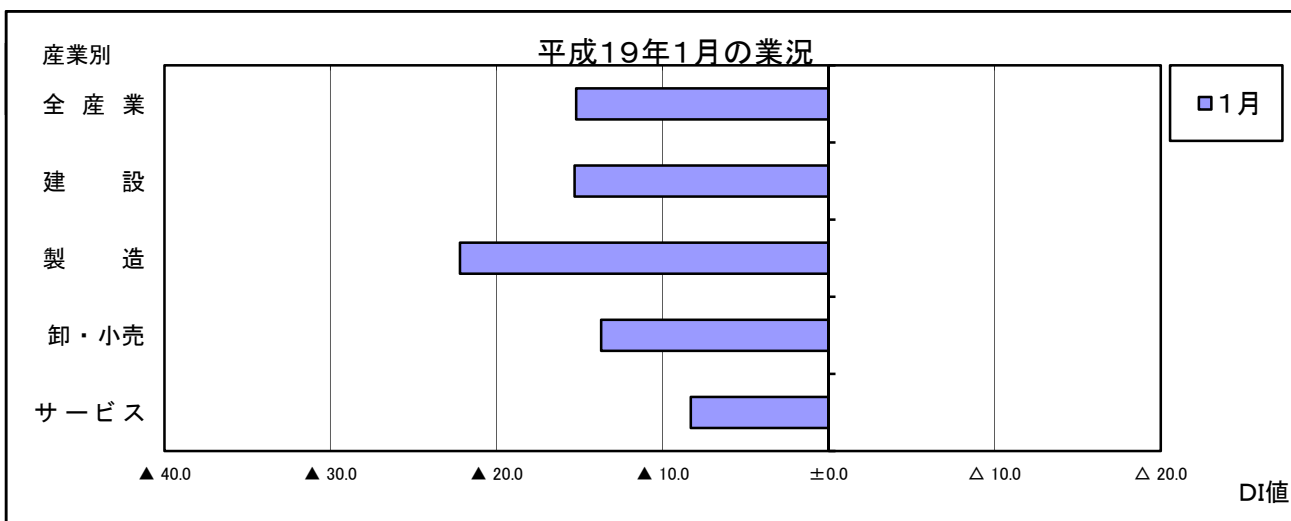
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲37.5)、サービス業▲8.3(同▲16.6)、卸小売業▲13.7(同▲20.6)である。特に、建設業はマイナス幅が△22.2ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲22.2(同△16.6)であり、▲38.8ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.7(前月水準▲13.3)となり、マイナス幅が△10.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、製造業△16.6(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲16.6)、卸小売業▲10.3(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲15.3(同▲12.5)である。

平成19年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲10.6	▲14.8	▲7.1	▲12.3	▲14.6	▲15.2	▲2.7(▲13.3)
建設	▲33.3	▲26.6	▲20.0	▲26.6	▲37.5	▲15.3	▲15.3(▲12.5)
製造	△16.6	△5.5	△13.3	△17.6	△16.6	▲22.2	△16.6(△5.5)
卸・小売	▲10.7	▲14.8	▲7.4	▲24.1	▲20.6	▲13.7	▲10.3(▲24.1)
サービス	▲21.4	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲16.6	▲8.3	±0.0(▲16.6)



【平成19年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲2.7(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

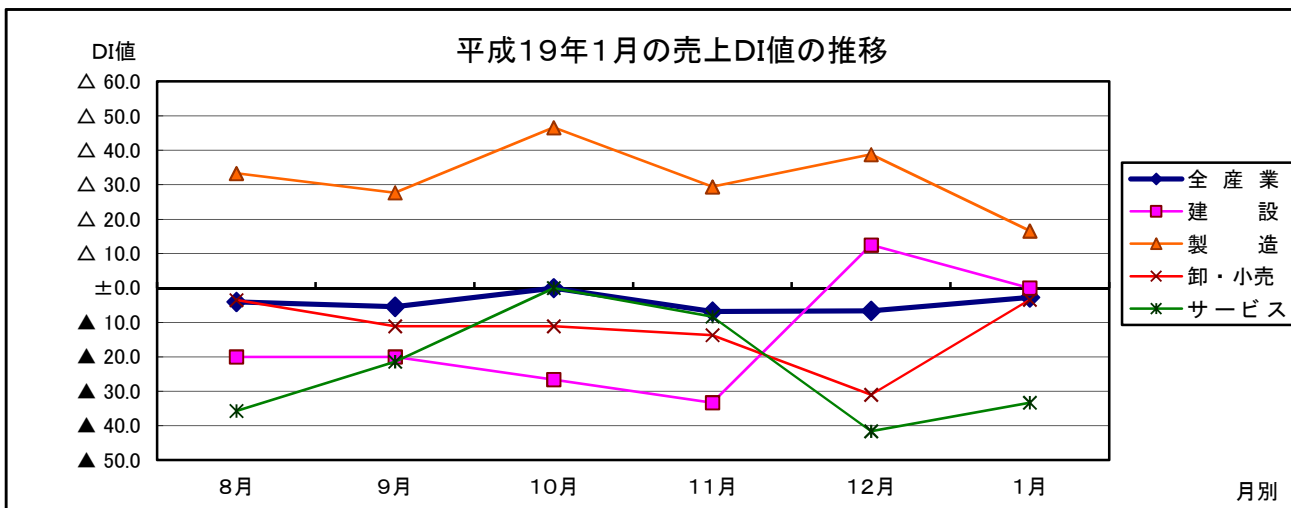
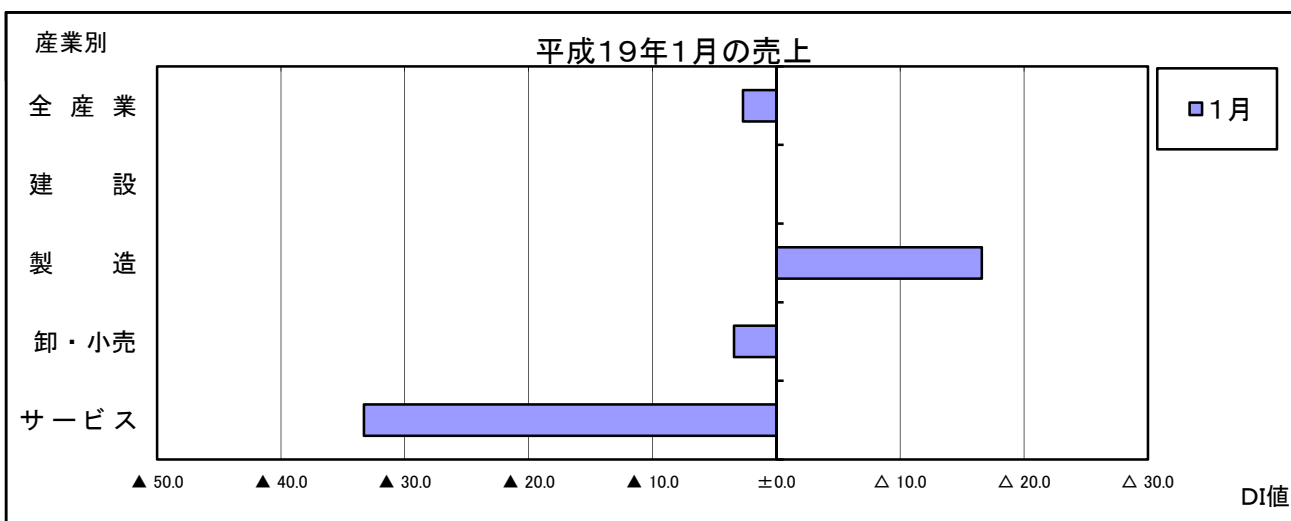
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△16.6(同△38.8)、建設業±0.0(同△12.5)である。特に、製造業はプラス幅が▲22.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲3.4(同▲31.0)、サービス業▲33.3(同▲41.6)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△27.6ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.7(前月水準▲1.3)となり、プラス幅が△4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、建設業△7.6(同±0.0)である。変らない見通しの業種は、製造業△27.7(同△27.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲8.3)、卸小売業▲13.7(同▲17.2)である。

平成19年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲4.0	▲5.4	±0.0	▲6.8	▲6.6	▲2.7	△2.7(▲1.3)
建設	▲20.0	▲20.0	▲26.6	▲33.3	△12.5	±0.0	△7.6(±0.0)
製造	△33.3	△27.7	△46.6	△29.4	△38.8	△16.6	△27.7(△27.7)
卸・小売	▲3.5	▲11.1	▲11.1	▲13.7	▲31.0	▲3.4	▲13.7(▲17.2)
サービス	▲35.7	▲21.4	±0.0	▲8.3	▲41.6	▲33.3	±0.0(▲8.3)



【平成19年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲8.0)となり、マイナス幅が▲7.2ポイント拡大した。

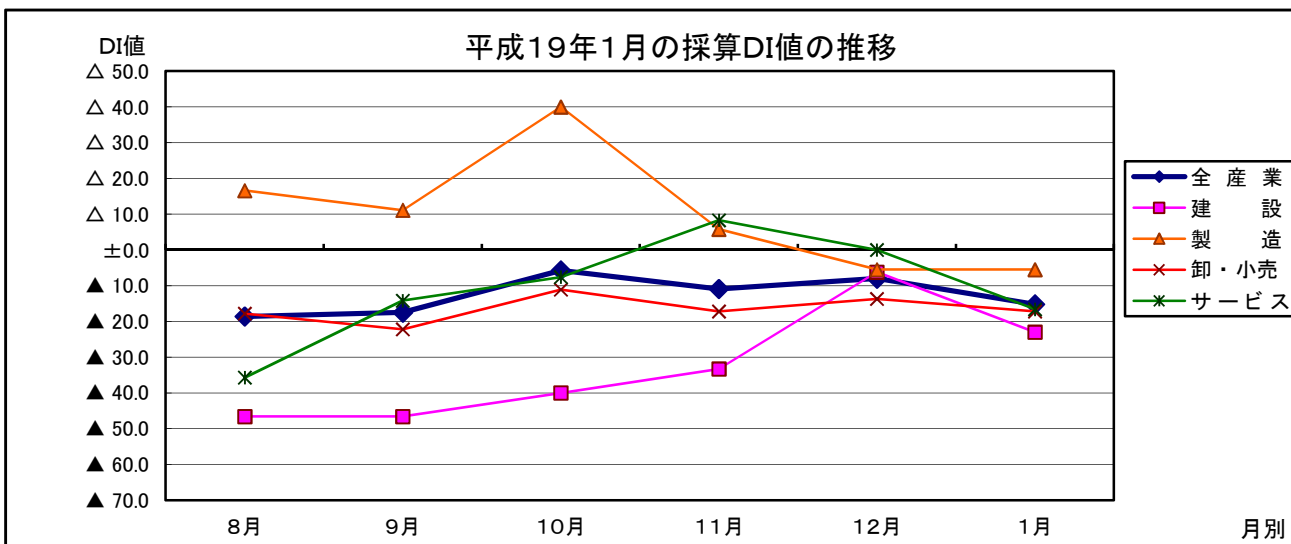
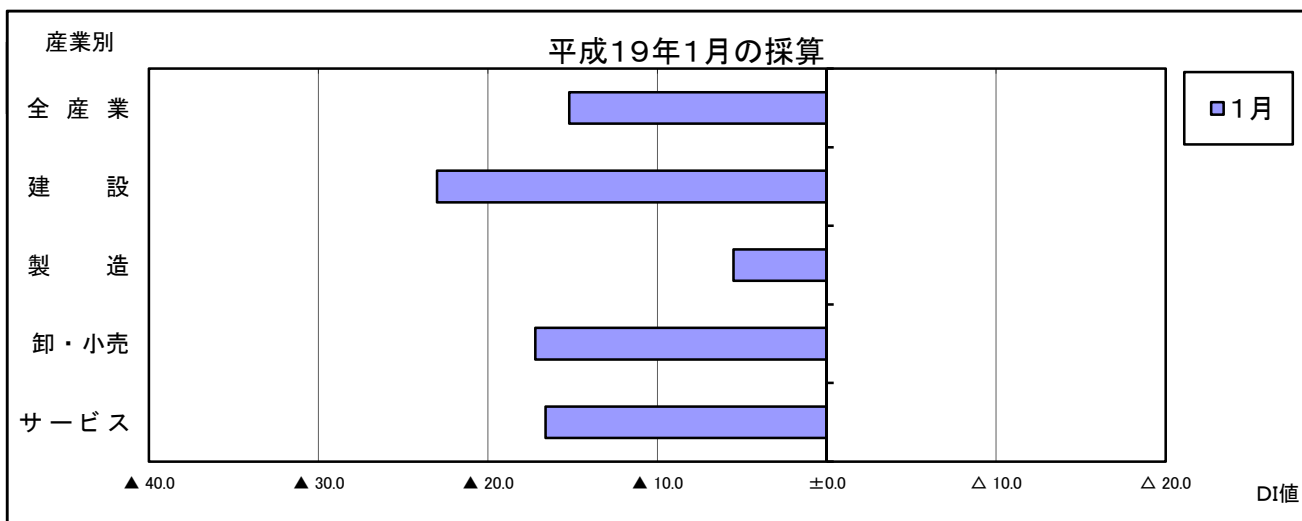
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.0(同▲6.2)、サービス業▲16.6(同±0.0)、卸小売業▲17.2(同▲13.7)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、製造業△11.1(同△11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.7(同▲24.1)、サービス業±0.0(同▲8.3)、建設業▲23.0(同▲31.2)である。

平成19年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲18.6	▲17.5	▲5.7	▲10.9	▲8.0	▲15.2	▲6.9(▲14.6)
建設	▲46.6	▲46.6	▲40.0	▲33.3	▲6.2	▲23.0	▲23.0(▲31.2)
製造	△16.6	△11.1	△40.0	△5.8	▲5.5	▲5.5	△11.1(△11.1)
卸・小売	▲17.8	▲22.2	▲11.1	▲17.2	▲13.7	▲17.2	▲13.7(▲24.1)
サービス	▲35.7	▲14.2	▲7.6	△8.3	±0.0	▲16.6	±0.0(▲8.3)



【平成19年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.4(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が▲4.4ポイント拡大した。

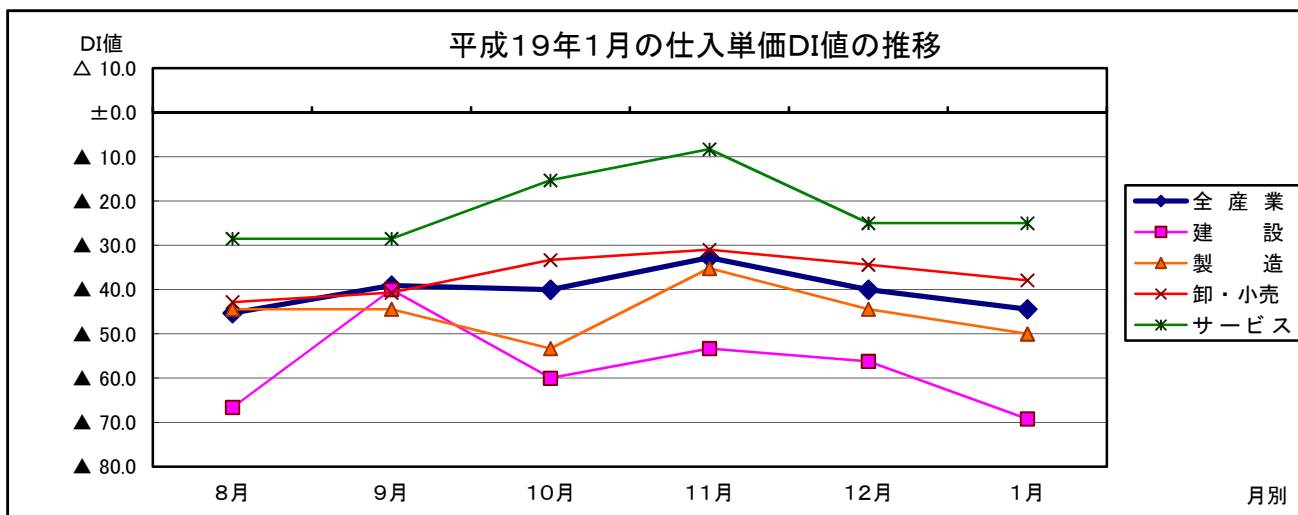
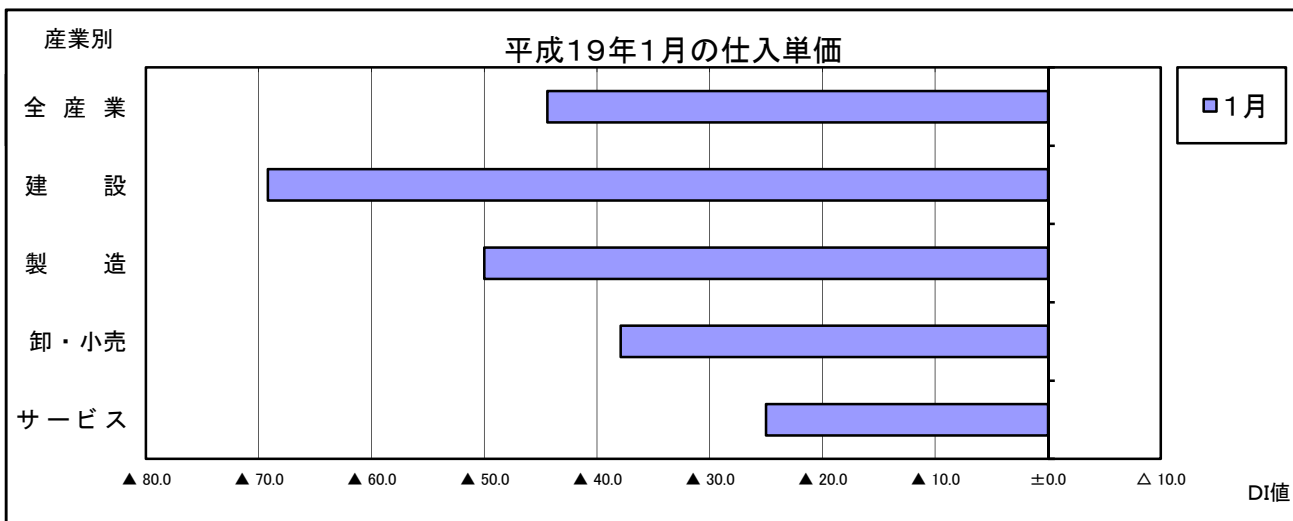
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲69.2(同▲56.2)、製造業▲50.0(同▲44.4)、卸小売業▲37.9(同▲34.4)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.1(前月水準▲26.6)となり、マイナス幅が▲9.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.8(同▲31.2)、卸小売業▲34.4(同▲24.1)、製造業▲33.3(同▲27.7)である。特に、建設業はマイナス幅が▲22.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成19年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲45.3	▲39.1	▲40.0	▲32.8	▲40.0	▲44.4	▲36.1(▲26.6)
建設	▲66.6	▲40.0	▲60.0	▲53.3	▲56.2	▲69.2	▲53.8(▲31.2)
製造	▲44.4	▲44.4	▲53.3	▲35.2	▲44.4	▲50.0	▲33.3(▲27.7)
卸・小売	▲42.8	▲40.7	▲33.3	▲31.0	▲34.4	▲37.9	▲34.4(▲24.1)
サービス	▲28.5	▲28.5	▲15.3	▲8.3	▲25.0	▲25.0	▲25.0(▲25.0)



【平成19年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.0(前月水準△13.3)となり、プラス幅が△4.7ポイント拡大した。

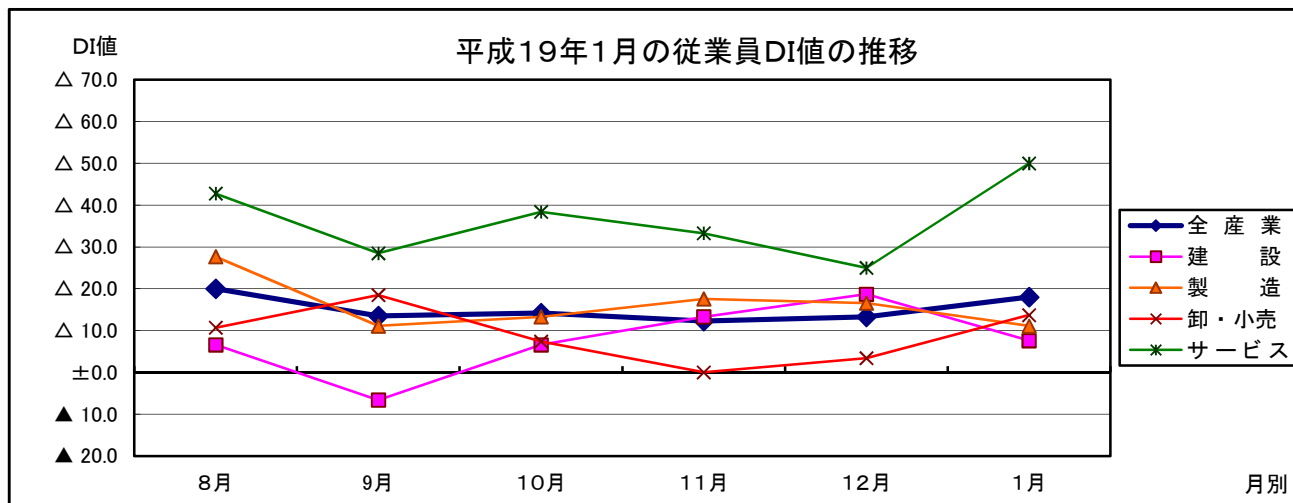
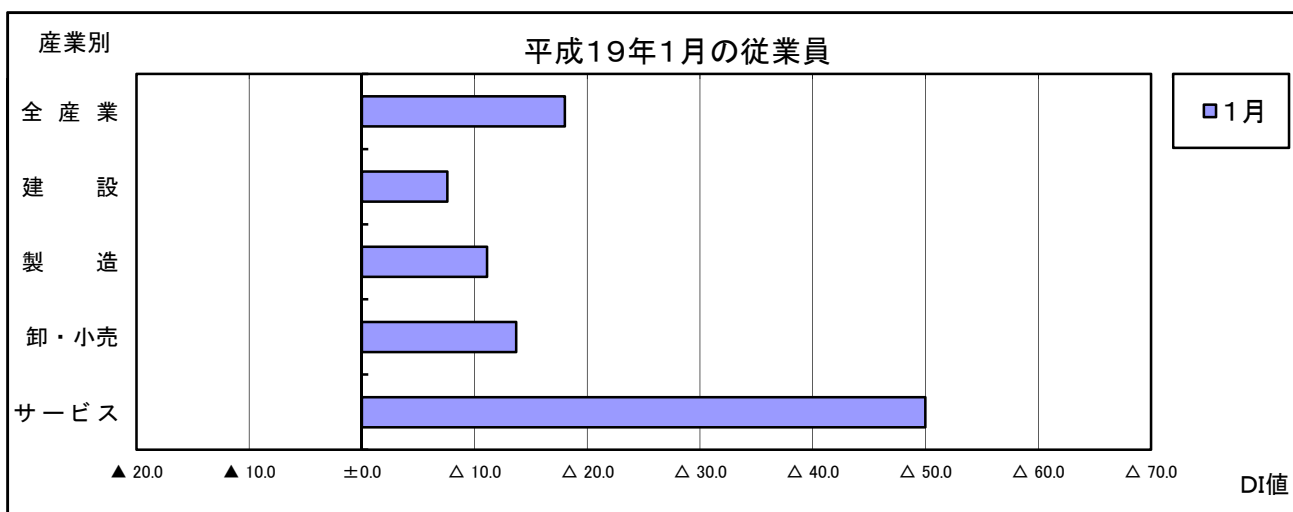
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△50.0(同△25.0)、卸小売業△13.7(同△3.4)である。特に、サービス業はプラス幅が△25.0ポイントと大幅に拡大した。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△7.6(同△18.7)、製造業△11.1(同△16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.0(前月水準△14.6)となり、プラス幅が△3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通し業種は、幅の大きい順に、サービス業△50.0(同△33.3)、卸小売業△13.7(同△3.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△7.6(同△18.7)、製造業△11.1(同△16.6)である。

平成19年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△ 20.0	△ 13.5	△ 14.2	△ 12.3	△ 13.3	△ 18.0	△ 18.0 (△ 14.6)
建設	△ 6.6	▲ 6.6	△ 6.6	△ 13.3	△ 18.7	△ 7.6	△ 7.6 (△ 18.7)
製造	△ 27.7	△ 11.1	△ 13.3	△ 17.6	△ 16.6	△ 11.1	△ 11.1 (△ 16.6)
卸・小売	△ 10.7	△ 18.5	△ 7.4	±0.0	△ 3.4	△ 13.7	△ 13.7 (△ 3.4)
サービス	△ 42.8	△ 28.5	△ 38.4	△ 33.3	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0 (△ 33.3)



【平成19年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.3(前月水準▲6.6)となり、プラス幅が△7.9ポイント拡大した。

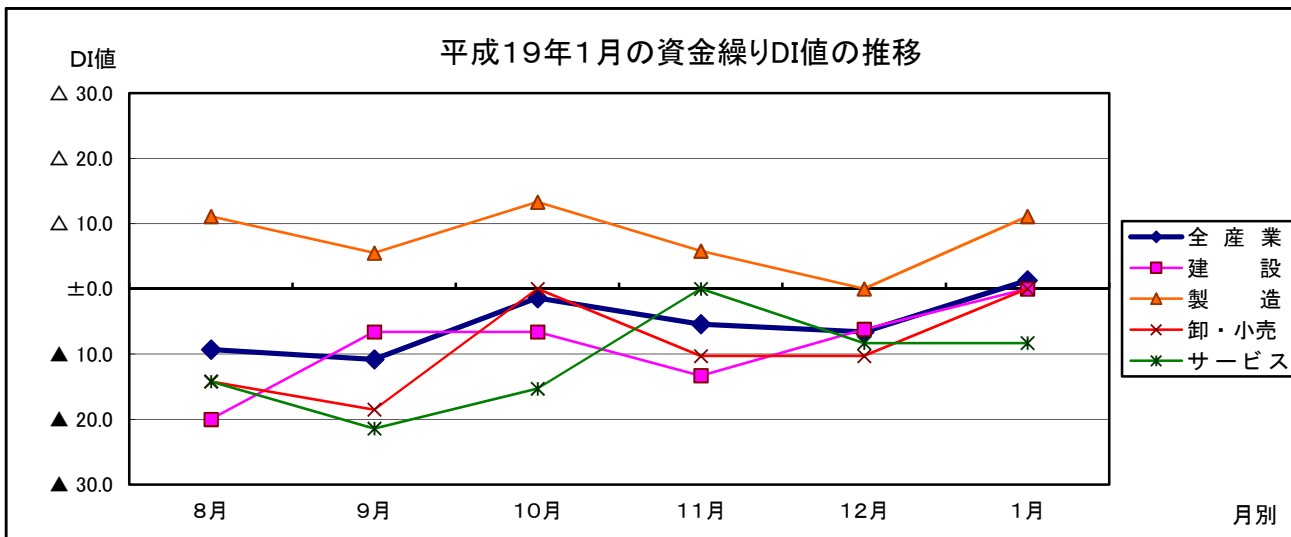
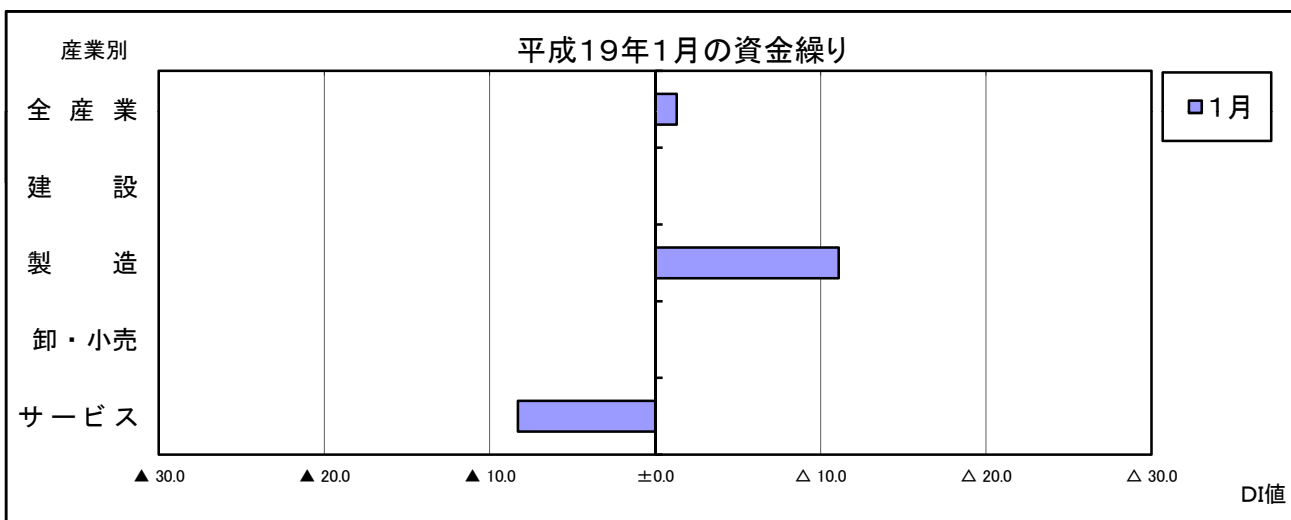
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△11.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同▲10.3)、建設業±0.0(同▲6.2)である。変わらない業種は、サービス業▲8.3(同▲8.3)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.5(前月水準▲2.6)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲13.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲15.3(同△12.5)であり、▲27.8ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲16.6(同▲8.3)である。

平成19年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 8月	9月	10月	11月	12月	平成19年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 9.3	▲ 10.8	▲ 1.4	▲ 5.4	▲ 6.6	△ 1.3	▲ 5.5 (▲ 2.6)
建設	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 6.2	±0.0	▲ 15.3 (△ 12.5)
製造	△ 11.1	△ 5.5	△ 13.3	△ 5.8	±0.0	△ 11.1	±0.0 (△ 5.5)
卸・小売	▲ 14.2	▲ 18.5	±0.0	▲ 10.3	▲ 10.3	±0.0	±0.0 (▲ 13.7)
サービス	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 15.3	±0.0	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.6 (▲ 8.3)



【平成19年1月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード
建設	近隣にリフォーム会社が多い。マンション建設に伴い、戸建住宅が減少。マンション建設は地場産業にとっては死活問題です。	・リフォーム会社増加 ・戸建住宅減少 ・マンション建設増加
	小額工事が多く、人間的に多忙な割には利益が少なく、完工高とのバランスが悪い。	・小額工事増加 ・利益減少
	特に大きな変化はありません。	・変化なし
	年度末の受注量は確保しているが、年度明けの受注については好材料がない。鉄、石材、ガソリンなど材料費が値上りしている。民間の仕事が若干好転しているが、価格は値下がりの一途である。よって採算が合わない。	・先行き不透明 ・仕入上昇 ・民間工事増加 ・価格下落 ・利益減少
	3月まで行程がかなり混んでいます。段取り良く進めることがキーポイントです。原材料が高騰のため材料費増額はかなり厳しいものがあります。また忙しいと外注度合いが高くなり影響大です。	・仕入上昇 ・受注好調
製造	昨年比で売上は伸びているが、原材料費の高騰等で利益は圧迫されている。	・売上増加 ・仕入上昇 ・利益減少
	全体的な状況は継続的に良好に推移しているが、暖冬によりカイロが若干不調。	・業況好調 ・暖冬 ・カイロ不調
	半導体中心の設備投資はまだ好調であり、2007年上期は持続しそう。	・設備投資 ・先行き好調
卸・小売	食品関係、飲食店関係は日、祝日によって売上が左右される事があります。昨年も書いたかも知れませんが、成人式の日程を変更した事は売上に大きな影響を与えています。	・成人の日変更の影響
	ららぽーと柏の葉の開業等競合が激化。駅前地区商業施設は厳しい状況が続く。	・ららぽーと柏の葉 ・競争激化
	食品は昨比維持ペースであるが、衣住が不振(ららぽーと開店以来同じ状況)。ただし住居はゲーム機(wii, DS)関連のおかげで住居全体を押し上げていることにより昨比維持ペースであるが、ゲーム機以外は不振の状況。おたかの森SC開店ももちろん影響予想されますが、今後上記の傾向が続くものと思われます。	・ららぽーと柏の葉 ・食品横這い ・衣住不調 ・ゲーム機好調 ・おたかの森SC
	先月に野菜の入荷減で年末一時単価高があったものの、暖冬による入荷増となって単価安の動き、果実では入荷減の単価高が続いています。全体的には入荷は増加しているが、売上は減少し、正月休暇の消費に伴って、今後の伸展は厳しい。次月以降回復基調が予想されます。また、量販店の動きにも情報をキャッチして対応を図りたい。	・暖冬 ・野菜入荷増単価安 ・果実入荷減単価高 ・売上減少
	前月最終的には100.8%と微増ではあるが、前年より売上は良かった。今月も同程度で推移している。	・売上増加
	ユーロの値上りでヨーロッパ方面の材料が値上がり。	・ユーロ高の影響
	年末から新年の寒さに期待したが暖冬のためコート・セーター類不調在庫処分が早まる。新学期用品は順調。おたかの森ショッピングセンターのスタッフ募集が本格化、柏の葉キャンパスに続き人材不足が深刻です。	・暖冬 ・冬物衣料不調 ・新学期需要 ・おたかの森SC ・人手不足
	暖冬のため灯油の販売量が減少。厳冬期待。	・暖冬 ・灯油売上減少
原油高騰のため。	・原油高騰	

【平成19年1月の業種別業界内トピックス】

	2年位想像を絶する展開をしてきた。LPガス仕入れ価格も高値だが安定してきていた。が、円安も加わり再上昇の兆しである。切り替え・価格設定など問題はたまたまあるが、地道な努力が生き残る道と思う。それにはどうあるべきか考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・LPガス ・円安の影響
	TXおおたの森駅前出店のステモ開店が3月。書店が900坪の面積で出店予定とのこと。どんな変化が出るのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・おおたかの森SC ・書店出店
	見切りに入った冬物に動きがあるが、前年よく売れた福袋は伸びなかった。例年のことながら中旬以降は低調に推移している。	<ul style="list-style-type: none"> ・冬物好調 ・福袋不調 ・売上低調
	毎年盛況である初売りは周辺競合激化の影響を受け、入店客数・売上共に前年を下回る結果となった。その後はセール前の買い控えなどもあり低調な推移となった。10日(水)～15日(月)の6日間開催したSUPER6DAYSでは、期間中売上7億円という結果となり、昨年期間中の呉服催事売上を除く昨対では100.2%と前年をクリアした。セール終了後SUPER FINALを開催し、前年並みの売上を確保しているが、前半の落ち込みをカバーするには厳しい状況である。月末に掛けて数店舗退店予定もあり、厳しい状況は続くと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・競争激化 ・初売り不調 ・客数減少 ・売上減少 ・セール好調
サービス	業況としては苦戦している店が多いようだ。今月は予約客と法事などの団体客が好調。	<ul style="list-style-type: none"> ・団体客増加
	宴会の部門は、会議・小規模展示会受注増。宿泊は財務省関連が増加。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議、展示会增加 ・宿泊増加

【平成19年1月の多い景気キーワード】

◎暖冬

- ・ 暖冬によりカイロが若干不調。 (製造業)
- ・ 暖冬による入荷増となって単価安の動き、果実では入荷減の単価高が続いています。 (卸小売業)
- ・ 年末から新年の寒さに期待したが暖冬のためコート・セーター類不調在庫処分が早まる。 (卸小売業)
- ・ 暖冬のため灯油の販売量が減少。厳冬期待。 (卸小売業)

◎ららぽーと柏の葉・おたかの森SC

- ・ ららぽーと柏の葉の開業等競合が激化。駅前地区商業施設は厳しい状況が続く。 (卸小売業)
- ・ 食品は昨比維持ペースであるが、衣住が不振(ららぽーと開店以来同じ状況)。おたかの森SC開店ももちろん影響予想されますが、今後上記の傾向が続くものと思われます。 (卸小売業)
- ・ おたかの森ショッピングセンターのスタッフ募集が本格化、柏の葉キャンパスに続き人材不足が深刻です。 (卸小売業)
- ・ TXおたかの森駅前出店のステモ開店が3月。書店が900坪の面積で出店予定とのこと。どんな変化が出るのか？ (卸小売業)











平成19年1月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲28.0で、マイナス幅が12.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.7に対し、「CCI-LOBO」が▲21.5で、マイナス幅が18.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲26.3で、マイナス幅が11.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.4に対し、「CCI-LOBO」が▲21.8で、マイナス幅が22.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△18.0に対し、「CCI-LOBO」が▲0.2で、プラス幅が18.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.3に対し、「CCI-LOBO」が▲19.6で、プラス幅が20.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で10ポイント以上良い。











平成19年1月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.2	 15.3	 22.2	 13.7	 8.3
CCI LOBO	 28.0	 40.4	 18.1	 28.7	 28.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.7	 ±0.0	 16.6	 3.4	 33.3
CCI LOBO	 21.5	 29.7	 8.9	 26.6	 20.0


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.2	 23.0	 5.5	 17.2	 16.6
CCI LOBO	 26.3	 41.4	 20.4	 24.1	 23.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 44.4	 69.2	 50.0	 37.9	 25.0
CCI LOBO	 21.8	 34.1	 40.0	 7.5	 15.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.0	 7.6	 11.1	 13.7	 50.0
CCI LOBO	 0.2	 14.7	 ±0.0	 6.0	 3.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.3	 ±0.0	 11.1	 ±0.0	 8.3
CCI LOBO	 19.6	 30.5	 14.0	 19.6	 18.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：平成19年1月19日～25日
 調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

仕入単価DIは改善するも業況DIは一カ月連続悪化、一・八ポイント

一月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(一・五二)よりマイナス幅が一・八ポイント拡大して二・八〇となり、一カ月連続でマイナス幅が拡大した。

【建設業】では、「市町村合併や北関東自動車道関連の工事が増加しており、一時的であるかもしれないが業況は好転している」(土木事)との声がある一方、「他の産業では景気回復との声が聞かれるが公共建設業は一向に良いとは感じられない」(建築工事)、「依然として続く公共事業や民間工事の減少により、中小零細規模の下請業者における先行きの見通しは明るくない」(一般工事)との声も寄せられている。

【製造業】では、「中国やインド、パキスタン向けの輸出増加により受注が増加傾向にある」とともに、「円安で採算も好転している」(繊維機械製造)との声がある一方、「一・一家の期限切れ原料使用問題の影響が広がることを懸念している」(パン・菓子製造)とのコメントのほか、「仕入コスト上昇により、売上が伸びても採算が好転しない」とも、今後の金利動

向が懸念材料となっている」(金属加工機械製造)と、仕入コスト上昇による影響と貸出金利引き上げへの懸念を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「前年同月は豪雪により来店者数が少なかったが今年は暖冬で降雪量が少なく自動車が増えやすいため来店者数が増加した」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「年初は人出も多く売上が伸びたが、仕事始めが過ぎた頃から低迷した昨年同時期と同じ状態に戻ってしまった」(農畜産水産物卸売)とのコメントのほか、「顧客である酒販店が相次いで廃業しており、その影響で業況が悪化したと感じている」(食料・飲料卸売)との声も寄せられている。

【小売業】では、「今年は雪が少ないため来店者数が増加しており、冬物のクリアランスセールの上も好調」(百貨店)との声がある一方で、「初売りは好調であったが、四日以降の売上は前年同月を下回っており、特に衣料品は前年同月比三割減を見込んでいる」(百貨店)、「暖冬の影響で冬物衣類や暖房設備の売上が少なく新年度向けの学校用品も地元で購入する消費者は少ないと予想」(商店街)と、暖冬による冬物商品の売上低迷と先行き不安を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「例年一月はあまり良くない月だが

今年暖冬と晴天により来店者数が予想を上回った」(喫茶店)、「原油価格下落の影響で軽油価格も値下げ傾向に入りつつある」(運送業)との声がある一方で、「暖冬によりスキークの宿泊が激減している」(旅館)とのコメントも寄せられている。また、「鳥インフルエンザやノロウイルスの発生など、飲食店にとっては打撃となる出来事が相次いで起こっており、不安な状況が続いている」(食堂・レストラン)と、食中毒等の流行による影響を訴える声も寄せられている。

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、来店者数増加、先行き期待という声が寄せられている。昨年豪雪のため本業の管工事を中断せざるを得なくなり売上がなかったが、今年暖冬で雪がなくなり作業が順調に進み売上が伸びている」(管工事)、「依然として高水準で安定した操業が続いており、心配していた豪雪による物流網への影響も大きく一層安定感を増している」(金属加工機械製造)とのコメントが寄せられている。また、「年初を筆頭に今月は売上、来店者数ともに好調に推移している」(百貨店)、「今後冬物や防寒着のパイセンで売上は増加するのではないか」(商店街)との声のほか、「年が明けてから来店者

一月のキーワード

回復への動き

数が増え、顧客の来店頻度が高くなっている感がある」(理容)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念
 公共工事や来店者数の減少、消費の低迷など業況低迷、仕入コストの増加による採算悪化、廃業発生の可能性の高まりを訴える声も寄せられている。建設、製造からは、公共工事の減少と競争激化、仕入コスト上昇により、建設費は大変厳しい環境に置かれており、今後、中小企業を中心に廃業が発生する可能性が高い」(一般事)、「売上について、数は確保できているがコストの増加が続くことから、採算が低迷していることから業況は依然として厳しい」(織物製造)との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「売上高は前年同月比で僅かに増加したが、先行きは楽観できない」(食料・飲料卸売)、「各店が新年大売出しを実施するも、来店者数は少なく売上も伸びなかった」(商店街)、「現在の業況は最悪だった昨年から改善しておらず、廃業する業者も多い」(すし店)とのコメントが寄せられている。

暖冬の影響・効果
 暖冬の影響による業況低迷を訴える声がある一方、来店者数増加、経費削減など暖冬の効果を挙げる声も聞かれている。建設、製造、卸売からは、「公共事業が減少する中で除雪作

業は数少ない仕事だが、今年は降雪が少ないために除雪作業すらもない」(一般工事)、「暖冬の影響による受注減少の影響は大きく、春夏物の受注が増加する時期が待ち遠しい」(織物外衣製造)、「暖冬と降雪量の減少で衣料や靴などの冬物商品の動きが低調」(各種商品卸売)との声や、引き続き暖冬の影響で冬物商品の売上が鈍いとのコメントが寄せられている。小売からは、「暖冬により除雪費用や暖房用の重油等の仕入コストが減少している」(百貨店)との声も聞かれている。また、サービスからは、「暖冬で雪が少ないため、人の動きが活発になるのではと期待している」(食堂・レストラン)とのコメントも寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	22.9	34.8	12.8	30.5	19.7	26.7
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
10月	25.2	38.1	13.4	34.4	23.1	28.1
11月	24.5	39.6	11.3	36.6	22.8	25.7
12月	25.2	34.4	15.2	31.3	25.6	27.0
1月	28.0	40.4	18.1	31.9	28.7	28.1
見通し	23.9	38.3	17.0	25.2	21.6	24.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI